

平成28年5月の大阪森林便り

木材輸出額 2%減少 丸太、中国減速の影響 1～2月

木材輸出の鈍化が鮮明です。2016年1～2月の輸出額は29億1100万円と、前年同期と比べて2%減りました。中国の景気減速を受けて減少しました。

丸太輸出額は255減りました。輸出量も24%減少。

合板は49%増えました。輸出量も64%増加。フィリピン向けの輸出です。

(2016年4月1日 日本経済新聞記事から抜粋)

木質燃料 確保へ知恵 バイオマス発電各社

自ら山林伐採 廃材を利用 林業者少なく供給不安

木質バイオマス発電は温暖化ガス削減や林業再生の面から注目が集まっていますが、発電所が相次いで建設される中、林業の人手不足などで間伐材など燃料供給の不安が広がり始めています。本来燃料ではない木材が燃料に使われている例もあるといます。

未利用木質バイオマス発電の1キロワットアワー当たりの買い取り価格は32～40円。価格面では優遇されています。

(2016年4月5日 日本経済新聞記事から抜粋)

巨樹の生命力

樹齢数百年に及ぶ巨樹は、戦争や大火などで枯れ死寸前になってもなお再生し、枝葉を広げていくことがあります。ついに朽ち果てれば、大地にかえり、無数の生き物を養っていきます。その壮大な生命は古くから人々の信仰の対象にもなってきました。

「倒木更新」と呼ぶ生態現象

自然林では、新しい樹木が倒木の上に着床発芽することがあります。厳しい環境下で、朽ちた木を養分に育つのです。

狭い一本の倒木の上に生育するので、木は行儀よく一列一直線に並んで立ちます。

(2016年4月14日 日本経済新聞記事から抜粋)

合板、供給減も卸値動かず 工場火災や輸入停止

需要低調、市場は冷静

合板卸値は、供給減が見込まれる中でも上昇の勢いを欠いています。

国内製造大手、セイホクグループの工場で火災が発生し生産が停止。型枠に使う輸入品の合板も海外大手が日本向けの受注を止めました。

需要は3月以降は落ち込み、市場には需給緩和感が漂っています。

合板の在庫は、2月末が前年同月末比5割減の低水準。実需が低調です。

(2016年4月22日 日本経済新聞記事から抜粋)

温暖化 森林監視で防ぐ 宇宙と地上からCO2測定

途上国を中心に世界各地で熱帯雨林の減少が続いています。先進国と途上国が連携し、宇宙や地上から違法伐採などを監視する新たな仕組みが動き出しました。

国連食糧農業機関（FAO）によると、九州と四国を足した面積に当たる516万ヘクタールの森林が毎年消えています。世界の森林面積の約0.1%を占めます。

ブラジルやインドネシア、ミャンマー、ナイジェリアなど熱帯で著しくなっています。人口増加に伴って食料を増産するために破壊が広がっています。

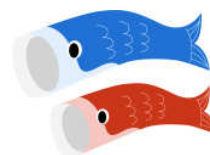
木は成長する過程でCO₂を吸収して蓄えますが、燃えたり腐ったりすると再びCO₂が放出されます。世界のCO₂排出量の約1割は森林の減少や劣化が関わっています。

(2016年4月24日 日本経済新聞記事から抜粋)

危機言語分布、森林減と一致

消滅の危機に瀕した言語の分布を世界地図で見ると、3カ所に特に多くなっています。南アメリカと、中央アフリカと、東南アジアからオセアニアにかけてです。危機言語の分布は、森林減少の地図とみごとに一致しました。

(2016年4月24日 日本経済新聞記事から抜粋)





今月の木の話

防虫・防カビ効果

大切なものをしまうには木のタンスがいいってホント？

フィトンチッドには衣類の大敵である虫やカビが嫌がる成分が含まれていて、そのため木のタンスや箱には虫やカビが寄り付かないのです。

特に優れた性能を持つものは、ヒバ、桧、ネズコ、クスなどです。このような材はシロアリも嫌うため、建材や家具の材料としてもすぐれています。総ヒバの家を造ると3年間は蚊が入らないといわれるほど優れた防虫効果があります。

桧も法隆寺などに代表される古建築の材料として有名です。

クスは防虫剤の代名詞である「樟脳」を採る木で、タンスによく使われます。

これらにはヒノキチオールと呼ばれる、より強い防虫・殺菌効果を持った成分が含まれていることが多いのです。

木は掃除のしやすさでも健康的です。フローリングの床は、ダニのえさとなる食べかすやフケ、ホコリなどをきれいに掃除することができるため、畳やカーペットの床に比べてダニの発生率が約1/4です。アトピー性皮膚炎や気管支喘息は、住まいのダニやカビが原因ともいわれています。木材はアレルギー抑制にも効果があるようです。

(社団法人福岡県木材組合連合会「木のある生活」より抜粋)

